

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・社会人特別選抜) 問題

筆記試験 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・社会人特別選抜) 問題

専門科目 (日本思想史 専攻分野)

1、日本思想史に関して、今後どのような事柄をどのように研究したいと考えているか、その計画を記しなさい(20行程度)。

11. 前近代の思想について、近代的な概念を活用しつつ分析することの意義と注意点を、それぞれ論じな
せよ。(20行程度)。

三、次の史料を読んで、以下の問いに答えなさい。

ある人或学者に問て云、『地獄極楽は有と思ひて能候や、又なしと思ひたるが能候や』学者答て云、有と思ひたるが能候。いかにとふるに、町人以下は動すればあし様なる心おこりやすし。聖人世に出賜ふ共、万民を尽く教て道をしらしめ給ふ事あたはず。民をば依しむべし、知しむべからず。況や末代の人、邪欲驕慢多し。地獄極楽、死後慥にありとしらせたき事也。(中略)しかるに今代の出家は、われましにうつ高き道理を説きかせ、ととりくときこと共を町人百姓に教て、地獄極楽死後になしなどといひきかするゆへに、今代は無学の女人童子も、地獄の沙汰などはおかしと思ひ、百千人の中にも信実なありと思ふ人は稀也。(中略)町人百姓といくとも少し道理をも学びたる人にて、地獄有とてもおそれがまひなく、地獄なしとても不義を行ふべき理なし、極楽ありとても余りに安楽なる所に行べき望なしと思ふ人あらば、其人のためには地獄天堂の沙汰も入べからず。或侍病死に臨める時、出家のいはく、『貴殿平生能奉公をつとめ給ひぬ。往生疑なかるべし。猶々一念を慎み給へ』とすくむ。侍起上りて云、『極楽はいかやう成所ぞ』僧の云、『七宝を地にしき、飲食衣服ころの求めにしたがふ。寒なく熱なく、常に安楽なる所なり』と。侍の云、『それは公家上臈女人童子か、扱は手足不具の病者などは、さやうなる所に住居してしかるべし。我勇士の家に生れて、雨に沐ひ、風に櫛けづり、或時は石を枕とし、苦をしとねとす。平生此心を失ふ事なく、敵を亡ぼし、忠を君に尽さん事をはかれり。死すといふ共此心を忘るべからず。何ぞさやうなる所に安楽して優々と日をおくらんや。あらいやの極楽世界や』と頭をふりていひしとかや。又或町人、出家に問て云、『死して生れがくる事は実か』出家の云、『慥に有事なり』町人の云、『われ死せば何にか生れなんや』僧の云、『貴方は仏法の学をしらずといへ共、常に慈悲心にして正直なり。又人間に生れ給ひなば、今一等富限なる人にか、又は武家に生れ賜ひなん』町人の云、『扱くなさけなき事かな。今我身の分限にてとく、家内眷属多く、事繁く、心苦し。子孫のおとろく、かねてより悔し。いはんや今一等富る身とならば、いよく本心を労する事なからんや。又武家に生れん事、猶々迷惑なり。一生主君におそれつかけて心のいとまなく、名利を第一として人の目をおどろかし、いかめしきふるまひをたのしみとせんよりは、たゞ此町人にこそ楽しけれ。一生善心をつとめても、死後にさやうなる嫌のものに生れ、いやなる事をなさん事口惜き次第、中へひいきの引たをしとやらんにて、近頃にかへ敷事成べし』といひしとかや。かやうなる得心の人々には、地獄極楽の教なく共、悪行をばなすべからず。まことに武士も武士にこそよれ、町人も町人にこそよれ。明智の天下三日といはれんよりは、鶴に生れて千年といはれんこそ、あらまほしけれと語られし。

【西川如見『町人囊』を一部改変】

(1) 「或学者」が地獄や極楽の存在に関して「有と思ひたるが能候」と主張したのはなぜか、その理由を史料の内容に即して説明しなさい (10行程度)。

(2) 史料中に「かやうなる得心の人々には、地獄極楽の教なく共、悪行をばなすべからず」とあるが、それはなぜか、「かやうなる得心の人々」の具体例を示して説明しなさい (10行程度)。

以下の答案用紙は、下書き用に使用してください。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.